

資料2 第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)



—目次—

1. 市総合戦略の目的	1
2. 市総合戦略の位置付け	1
2. 1 国・京都府の総合戦略との関係	
2. 2 市人口ビジョンとの関係	
3. 計画期間	1
4. 市総合戦略の体系	2
5. 基本目標と施策について	3
6. 基本目標ごとの具体施策	4
6. 1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、 企業誘致・立地による雇用と就業の創出	4
6. 2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開	5
6. 3 「子育て支援 No. 1」を目指した施策の充実	6
6. 4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる 地域コミュニティの充実	7
6. 5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化	8
6. 6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出	9・10
7. 推進体制、効果検証の仕組み	11
7. 1 推進体制	
7. 2 効果検証	

1. 市総合戦略の目的

○市総合戦略は、市人口ビジョンで示された木津川市の人口の現状と動向に基づき、将来のまちの姿と人口目標の実現に向け、今後 5 か年の目標や施策の基本目標、具体的な施策を定め、その進捗・達成状況の評価を行うことを目的とします。

2. 市総合戦略の位置付け

2.1 国・京都府の総合戦略との関係

○市総合戦略は、国の創生総合戦略に加え、京都府地域創生戦略との整合性を確保し、目標の実現に向け、国や京都府と連携し推進します。

2.2 市人口ビジョンとの関係

○市総合戦略は、市人口ビジョンを実現するために、今後 5 か年に実施する施策と推進方策を示した戦略プランであり、あわせてまちづくりの最上位計画である市総合計画（2019（平成 31）年度から 2028（令和 10）年度まで）の施策・事業との整合を図ります。

3. 計画期間

○2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度までの 5 年間とします。

表 3-1 市総合戦略の目的と期間

目的	市人口ビジョンで示された木津川市の人口の現状と動向に基づき、将来のまちの姿と人口目標の実現に向け、今後 5 か年の目標や施策の基本目標・具体的な施策を定め、その進捗・達成状況の評価を行う。
期間	2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度までの 5 年間

4. 市総合戦略の体系

○市総合戦略の基本方針

- ・近年、全国的な少子高齢化、人口減少の中で、木津川市は多くの子育て世代に魅力あるまちとして選ばれ、人口が着実に増加していることから、子育て・子育ちのまちづくりを一層充実させることとし、戦略の柱は「子育て」、戦略のスローガンは「子ども育マチ・きづがわいい」とする第1期市総合戦略を継承することとしました。
- ・若者を中心とした人口流出の抑制、出産・子育て環境の整備、雇用の確保、情報通信技術の活用、市内外の連携・交流促進といった木津川市の課題を踏まえ、Society5.0の実現に向けた技術の活用や、持続可能な開発目標「SDGs」を原動力とした地方創生などの新しい時代の流れを力にして、一人でも多くの方により魅力あるまちづくりを実感いただくため、第1期市総合戦略の3つの姿勢を継承しつつ、6つの基本目標を定めました。

戦略スローガン	
子ども育マチ・きづがわいい	
<p>「かわいい」と「木津川良い」を合わせ「Lovely & Good」という意味の造語です。「かわいい」には、愛される、惹きつける、癒される、魅力あるという複合的な意味もあり、「広く・長く・愛される」まちとして伸びていく想いをこめています。</p>	
姿勢 1 誰もが「住みたい」と思えるまち	
歴史・文化・自然豊かで良質な住環境や学研都市の最先端技術が共存し、鉄道・道路などの多様な交通利便性を兼ね備えるなど、魅力ある「住みたいまち」の実現による移住・定住の促進を目指します。	
姿勢 2 誰もが「住み続けたい」と思えるまち	
若い世代、とりわけ子育て世代のために、仕事と家庭の両立がかなう環境づくりや、学研都市の企業集積、産業の振興・活性化による安定した市内における雇用確保を実現し、「住み続けたい」まちづくりを推進します。	
姿勢 3 誰もが「住んでよかった」と思えるまち	
地域と、地域や市外との交流、また、新しく移り住んできた人同士や、既存住民との交流などを通じて、地域に対する理解や愛着、誇りを醸成し、「住んでよかった」と思えるまちづくりを推進します。	
基本目標1	学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出
基本目標2	「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開
基本目標3	「子育て支援 No.1」を目指した施策の充実
基本目標4	小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実
基本目標5	地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化
基本目標6	まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

図 4-1 総合戦略の枠組み

5. 基本目標と施策について

○基本目標ごとの施策を以下に示します。

基本目標 1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出

- ①最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出
- ②安定した付加価値の高い農業の振興
- ③創業支援など雇用対策の充実

基本目標 2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開

- ①歴史遺産等の保全・活用によるまちづくり
- ②歴史文化遺産を活用した観光振興の促進
- ③安心して観光できる案内機能の充実
- ④学研木津北地区の利活用
- ⑤山城町森林公園の利活用

基本目標 3 「子育て支援N o.1」を目指した施策の充実

- ①安心して、楽しみながら子育てができる支援の充実
- ②保育ニーズの対応と待機児童ゼロの継続
- ③新しい時代の流れを力にした最先端の教育環境の充実

基本目標 4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実

- ①地域公共交通ネットワークの充実
- ②公共施設の利活用
- ③安心・安全な暮らしの向上

基本目標 5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化

- ①京都大学大学院農学研究科附属農場等との連携
- ②立地企業との協働や様々な教育機関との連携

基本目標 6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

- ①多様・多彩な、人ととのつながりのあるまちづくりの実現
- ②伝統産業やアートを中心としたヒトづくり
- ③移住・定住の促進
- ④健康長寿のまちづくり

6. 基本目標ごとの具体施策

6.1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出

施策目標	○最先端の研究成果が集う学研都市の特色を活かした企業集積や都市近郊農業の活性化を図りながら、雇用と就業の創出に取り組みます。 ○特に、市内における地産地消の推進や、学校給食における安心安全な地域農産物の提供に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI・目標数値	1. 生産年齢人口 46,180 人(R1) → 48,500 人(R6) 2. 新規就農者数 12 人(H30) → 15 人(R6) 【子育て未来－KPI】 子育てイベント延べ参加者数（学研関連）：2,458 人(H30) → 3,000 人(R6)	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	①最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出 わが国の新時代を創造する文化・学術・研究の拠点としての役割を担う学研都市において、学研施設・研究機関等の知の集積を活用して新たな産業の創出を支援します。また、その周辺部において学研施設・研究機関等と連携した産業との活性化を推進する等、学研都市の様々な効果を活用し、新たな産業や事業を創出するための取組みを支援するとともに、立地規模や創業段階に応じた段階的な助成など企業ニーズに対応し、企業誘致を推進します。	新規事業場設置支援延べ件数 0 件 (R1) → 6 件 (R6)
	<主な事業> ○企業立地促進事業費助成金事業(木津川市企業立地促進条例によるもの)	<所管課> 観光商工課
	②安定した付加価値の高い農業の振興 担い手不足や高齢化等により、中山間地域をはじめ、遊休農地や里地里山の荒廃化が今後さらに加速化し問題となることが予想されるため、早急な取り組みが必要となっています。それらを解決するため、農業のさらなる振興を図るとともに、営農基盤づくりや担い手の育成を進め、地産地消の推進といった付加価値の向上に取り組むとともに、京野菜等の販路拡大を進めます。	農林産物直売所等件数 12箇所 (H30) → 15箇所 (R6)
施策	<主な事業> ○木津川市みのりフェア事業 ○地産地消推進事業(市内消費) ○地産地消推進事業(学校給食) ○農林産物直売所整備支援事業 ○圃場整備事業 ○認定農業者支援事業 ○新規就農者支援事業 ○獣害等に強い農産物生産支援事業	<所管課> 農政課 農政課 農政課、学校教育課 農政課 農政課 農政課 農政課 農政課 農政課
	③創業支援など雇用対策の充実 就業や雇用等の労働条件や就業ニーズが多種・多様化するなか、雇用の安定と促進を図るため、関係機関との連携を強化し、就業機会の確保や就業能力の開発等の支援に努めます。また、雇用吸収力の高い企業の誘致や既存企業の活力向上等の支援により、魅力ある雇用の場の確保に努めます。さらには、新産業の創出を目的とした交流会などの開催に取り組みます。	市内事業所数 1,878 事業所(H30)→1,950 事業所(R6) 新規創業者支援延べ件数 0 件 (R1) → 20 件 (R6) 立地及び助成対象企業による市民雇用者增加人数 598 人 (H30) → 900 人 (R6)
	<主な事業> ○小規模企業おうえん融資保証料補助事業 ○プレミアム商品券発行事業 ○特定創業支援事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課 観光商工課

6.2 「交流人口」「関係人口」の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開

施策目標	<p>○地域に暮らす人々が市の魅力を再発見するとともに、それを活用することで新たな魅力を醸成し、市内外の多くの人と交流できるよう魅力の創造と人々の交流促進に取り組みます。</p> <p>○特に、子どもたちが、まちへの愛着を深めができる木津川市の歴史文化遺産を活用した学習プログラム、里地里山を活用した世代間交流の促進などに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。</p>	
KPI 目標 数値	<p>1.ふるさと納税延べ件数：484件→844件 2.観光入込客数：965,000人(H30)→1,013,250人(R6) 3.観光消費額：2,110,000千円(H30)→2,215,500千円(R6)</p> <p>【子育て未来-KPI】 地域連携保全活動応援団活動延べ参加者数：0人(H30)→50人(R6)</p>	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値→R6目標値
施策	<p>①歴史遺産等などの保全・活用によるまちづくり</p> <p>本市には、自然環境と調和した史跡・神社仏閣・伝統的祭り等の有形無形の歴史文化遺産、伝統的な街並み・農山村集落等といった貴重な歴史遺産を数多く有しています。それらを次世代に継承し、また、観光や憩いの空間として活用を図り、本市の魅力をさらに高めるまちづくりに取り組みます。</p> <p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保存活用地域計画の作成事業 ○史跡恭仁宮跡公有化事業 	<p>文化財出前講座延べ参加者数 950人(R1)→1,000人(R6)</p>
	<p>②歴史文化遺産を活用した観光振興の促進</p> <p>お茶の京都DMOやホテル・宿泊施設の立地が進む近隣市町と連携し、市が有する歴史文化資産や観光資源を活用したコースの設定等に取り組み、「交流人口」「関係人口」の増加や観光消費の拡大を図ります。また、いつでもどこでも出向いてお迎えをする、ヒト・モノの交流を生む潤滑油の場として「にぎわい」を創造する「キヅガワゴン」を活用した団体などが主催するイベントを創出・支援します。</p> <p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キヅガワゴン活用事業 ○山背古道関連事業 ○大仏鉄道関連事業 ○京都やましろ地域と東京しぶや連携交流事業 	<p>キヅガワゴン活用イベント入込客数 28,570人(H30)→30,000人(R6)</p> <p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光商工課 観光商工課 観光商工課 観光商工課
	<p>③安心して観光できる案内機能の充実</p> <p>観光客の利便性の向上を図るために、スマートフォン用のサイトの活用による情報発信を行い、「交流人口」「関係人口」の増加を目指します。また、インバウンド等に対応するため、多言語対応に取り組みます。</p> <p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光情報アプリ事業「きづがわなう」 	<p>観光情報アプリ「きづがわなう」ユーザー数 1,372人(H30)→1,972人(R6)</p> <p>多言語対応新規取組件数 0件(H30)→5件(R6)</p> <p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光商工課
	<p>④学研木津北地区の利活用</p> <p>学研木津北地区において、まちの里地里山の景観・生物多様性の保全や地域づくり及び地域振興の資源として、里地里山環境の再生を進めます。また、生物多様性木津川市地域連携保全活動計画に基づき、各種団体などと連携し、里地里山保全活動への参加者の増加・定着に努めます。</p> <p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携保全活動応援団活動事業 	<p>里地里山保全活動延べ参加者数 4,689人(H30)→5,000人(R6)</p> <p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 都市計画課
	<p>⑤山城町森林公園の利活用</p> <p>森林を保全だけでなく活用を図り、自然環境の中にある山城町森林公園などを活用し、木育や癒しのある空間づくりのため、施設の改修や、多様な主体と協働した取り組みを通して、新たな誘客に取り組みます。</p> <p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○山城町森林公園整備事業 ○山城町森林公園を活用した市民協働事業 	<p>山城町森林公園延べ利用者数 27,179人(H30)→31,000人(R6)</p> <p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 農政課 農政課

6.3 「子育て支援 No.1」を目指した施策の充実

施策目標	<p>○若い世代が多い木津川市において、子育て支援は、市総合戦略で掲げる将来都市像の実現のための根幹を成すものであり、重点的に取り組みます。</p> <p>○すべての子育て世代が、安心して子どもを産み育てことができるとともに、子ども自身が未来に向かってはばたくことができるよう「子育て支援 No.1」施策の充実させるため、「Society5.0」や「SDG's」等の、新しい時代の流れを力にした「子育て・子育ち」のまちづくりを推進します。</p>	
	<p>1.合計特殊出生率： 1.54(H26) → 1.8(R12) 2.年少人口（15歳未満） 13,075人(R1) → 13,663人(R6)</p> <p>【子育て未来－KPI】</p> <p>1.学校に行くのが楽しいと感じる小学生の割合：81.0% (R1) → 83.0% (R6) 2.学校に行くのが楽しいと感じる中学生の割合：82.9% (R1) → 84.0% (R6)</p>	
KPI 目標 数値	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	<p>①安心して、楽しみながら子育てができる支援の充実</p> <p>核家族化や共働き世帯の増加等、子どもとその家族を取り巻く様々な状況に対応できる社会づくりを進めます。特に安心して妊娠・出産ができ、すべての子どもが尊重され、健やかに成長できる子育て環境の充実を推進します。また、子どもの健やかな成長を促すため、市民全体が温かく見守る支援体制や、子どもが安全に遊べる場所づくりに取り組み、親がゆとりを持ち、子育ての不安を解消し、楽しみながら子育てできる環境づくりを推進します。</p>	<p>つどいのひろば利用者数 19,498人(H30) → 21,000人(R6)</p> <p>ファミリー・サポート・センター利用者数 405人(H30) → 500人(R6)</p> <p>子育て支援アプリ「きづがわいい」ユーザー数 1,919人(H30) → 2,519人(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ◦つどいのひろば事業 ◦ファミリー・サポート・センター事業 ◦産前・産後ケア事業 ◦子育て世代包括支援センター「宝箱」事業 ◦病児・病後児保育室「ひまわり」事業 ◦子ども・子育て支援事業計画推進事業 ◦子育て支援センター事業 ◦子育て支援アプリ事業「きづがわいい」 ◦第3子以降保育料等無償化事業 ◦福祉医療費助成事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康推進課 健康推進課 健康推進課 健康推進課 健康推進課 こども宝課 こども宝課 こども宝課 こども宝課 国保年金課
施策	<p>②保育ニーズの対応と待機児童ゼロの継続</p> <p>子どもの幸福を基本に、子育て家庭の多様な要望等を踏まえ、利用しやすく充実した保育サービスの提供を進めます。また、待機児童が生じないよう、保育需要の変化等に応じた保育所等の運営のあり方や、安心して家庭で子どもを育てることができる保育支援体制の構築を進め、保育環境の充実を図ります。</p>	<p>待機児童数（0人を継続） 0人(H31) → 0人(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ◦保育所・幼稚園運営事業（延長保育、一時預かり等） ◦保育士確保対策事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> こども宝課 こども宝課
	<p>③新しい時代の流れを力にした最先端の教育環境の充実</p> <p>未来ある子ども達の個性を活かしながら、社会の変化や国際化・情報化など、グローバルに対応できる人材育成を進めます。た、生きる力を育む学校教育、生涯にわたる人格の基礎を形成する幼児教育、副読本「わたしたちの木津川市」を活用した歴史文化遺産や研究施設からの地域の特徴を学ぶ郷土教育等の取組みをめ、まちに誇りと愛着の持てる教育を推進します。</p>	<p>小中学校タブレット導入率 0% (R1) → 100%(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ◦小中学校タブレット導入事業 ◦小学校英語指導講師事業 ◦夏休み英語レッスンイベント事業 ◦木津川市特色ある学校づくり推進事業 ◦ICT機器を活用した「ふるさと発見・体験・発信」事業 ◦食育推進事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課 学校教育課

6.4 小さな拠点を活用した誰もが活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実

施策目標	○世代や地域、居住歴、興味・関心など、異なる背景をもつ多様な人が結びつきながら居住する状況を活かし、市ならではの個性と魅力が溢れる地域コミュニティづくりに取り組みます。 ○特に、地域で暮らす人々が、地域活動を楽しみ、また子育て世代が子どもたちとともに地域と繋がるよう、小さな拠点（多世代交流・多機能型）づくりや、安心・安全な地域づくりに重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。	
KPI 目標 数値	1.市外からの滞在人口数：54,968 人／日(H30) → 57,716 人／日(R6) 【子育て未来－KPI】 「通勤・通学の交通の便利さ」に対する満足度：31.9%(H30) → 35.0%(R6)	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
施策	①地域公共交通ネットワークの充実	公共交通利用者数 1370 万人(H30)→ 1,400 万人(R6) 公共交通全体の満足度 (加重平均値・5段階評価) 2.27(R1) → 3.00(R6) コミュニティバス利用者数 249,850 人(H30)→ 270,000 人(R6)
	<主な事業> ○コミュニティバス運行事業	<所管課> 学研企画課
	②公共施設の利活用	当尾の郷会館利用者数 9,455 人 (H30) → 13,000 人 (R6) 当尾クリエーションプロジェクト延べ参加者数 0 人 (R1) → 500 人 (R6)
	<主な事業> ○当尾地域力創造プラン推進事業 ○当尾クリエーションプロジェクト事業 ○庁舎長寿命化計画事業 ○加茂支所有効利活用事業	<所管課> 観光商工課 観光商工課 総務課 財政課
	③安心・安全な暮らしの向上	自主防災組織率 71.5% (H30) → 85% (R6) 自主防災組織活動回数 285 回 (H30) → 330 回 (R6) 防災士資格取得人数 0 人 (H30) → 120 人 (R6)
	<主な事業> ○安心・安全防犯カメラ設置事業 ○防災士資格取得事業	<所管課> 危機管理課 危機管理課

6.5 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化

施策目標	<p>○京都大学大学院農学研究科附属農場をはじめとする様々な教育機関等と連携し、講座や体験学習会を通して農業への親しみを深めるとともに、ブランド農産品など、新たな魅力の創造によるまちづくりの活性化に取り組みます。</p> <p>○特に、子どもたちが、興味を持ち楽しめる講座や体験学習会のプログラムを通して、最先端の科学技術に対する知識を身につけるとともに、地域の特色・文化等を学び、大人になっても木津川市に住みたいと思ってもらえるよう、まちへの愛着・U/I ターン意向の醸成に重点的に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。</p>	
KPI・目標数値	<p>1. 京都大学大学院農学研究科附属農場との連携事業数：0件(H30) → 1件(R6)</p> <p>【子育て未来-KPI】 中学生しごと・職場体験受入事業所数：205事業所(R1) → 230事業所(R6)</p>	
施策	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	①京都大学大学院農学研究科附属農場等との連携 京都大学大学院農学研究科附属農場と連携し、市民農業大学や市民体験学習会の開催、また、ブランド農産品の共同開発・育成などに取り組み、まちの「食」の情報発信に努め、まちの認知度・知名度向上に取り組みます。	京都大学大学院農学研究科附属農場オープンファーム参加者数 868人(R1) → 1,000人(R6)
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民農業大学講座事業 ○ブランド農産品開発支援事業 ○木津川市みのりフェア開催事業 ○(仮称) フードバレー構想事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 農政課 農政課 農政課 学研企画課
	②立地企業との協働や様々な教育機関との連携 京都府立木津高等学校をはじめとする教育機関と連携し、地域資源を生かした教育活動や、まちの歴史文化の学習会の開催に取り組むと共に、中学生によるまちづくりへの施策提案などに取り組み、まちへの愛着を深め、地域に根ざした時代のリーダーを創出します。また、地方創生のさらなる充実・強化に向け、立地企業をはじめとする企業とのパートナーシップの構築を目的として、企業版ふるさと納税制度の導入等を進めます。	大学生インターンシップ受入者数 3人(R1) → 4人(R6)
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生職業体験事業 ○木津高校による農産物等販売事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育課 学研企画課

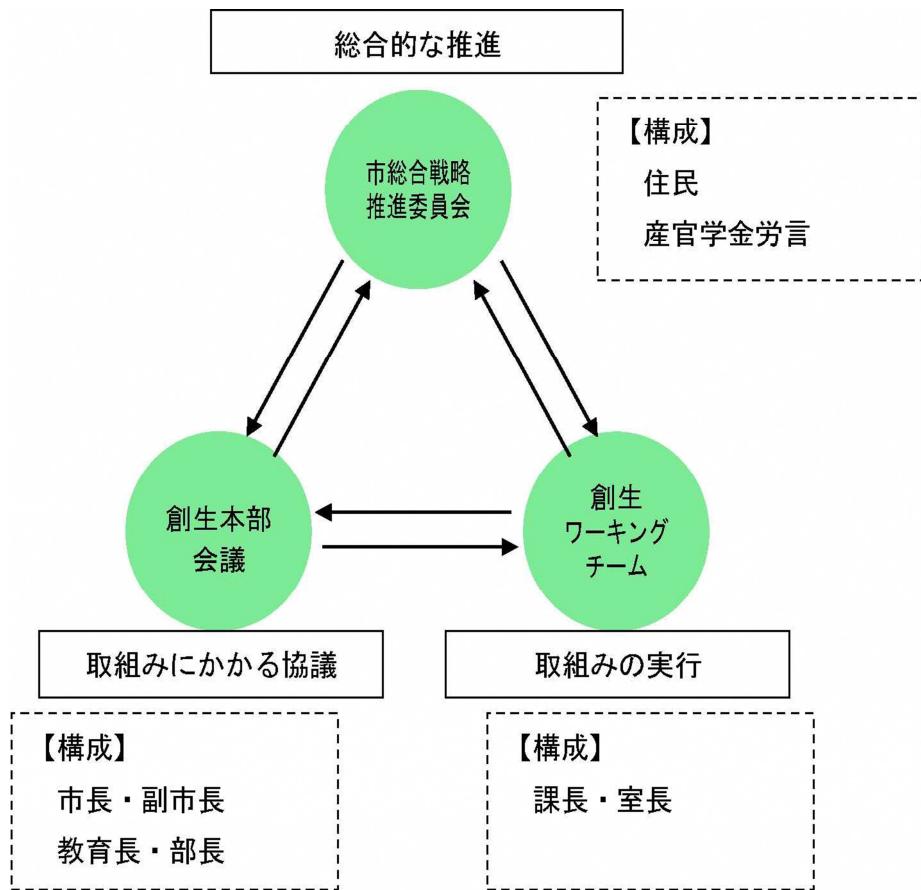
6.6 まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

施策目標	<p>○木津川市の将来を担う、まちづくりのリーダーや地域創生の基盤となる人材の育成に取り組むとともに、まちに関する情報サイトを設置し、移住・定住を促進するなど、これまでのまちづくりの成果を将来にわたって受け継げるような支援に取り組みます。</p> <p>○特に、まちを担う若い世代や子供が楽しみながら参加できるまちづくりを通して、マチオモイの意識を醸成するとともに、社会のグローバル化等に対応した、国際感覚をもった人材の育成に取り組むことで、子育て・子育ちのまちづくりを推進します。</p>	
KPI 目標 数値	<p>1. マチオモイな仲間たち(農で頑張る協議会) : 89 人(H30) → 100 人(R6)</p> <p>2. まちへの愛着度 : 72.5%(H30) → 75.0%(R6)</p> <p>【子育て未来-KPI】</p> <p>1. 中学生アンケートにおける住みよさ満足度 : 77.0%(H29) → 80.0%(R6)</p> <p>2. 中学生アンケートにおける定住意向率 : 40.4%(H29) → 45%R6</p>	
	詳細	重要業績評価指標(KPI) 現況値 → R6 目標値
	<p>①多様・多彩な、人ととのつながりのあるまちづくりの実現</p> <p>多様・多彩な市民の豊かな経験や英知をまちづくりに活かすための仕組みづくりや人材の支援・創出を目的に、ふるさと応援事業として採択された郷土愛等を活かした市内で頑張る取組みや農で頑張る協議会等が継続されるよう、定期的な意見交換会等を通じて、まちづくりへの情報共有や多様な主体とのマッチングなどの支援に取り組みます。</p>	<p>農で頑張る協議会地場コーナー売上高 1,248 千円(H30)→14,400 千円(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと応援事業団体等意見交換会事業 ○地域農業活性化事業 (農で頑張る協議会) 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 学研企画課 農政課
	<p>②伝統産業やアートを中心としたヒトづくり</p> <p>市内事業者の高度な技術や、歴史・文化、豊かな地域特有の伝統産業などを積極的にPRするとともに、観光協会などの情報発信・資源掘り起し活動を支援します。また、市が有する豊かな歴史、自然環境や文化の中に「現代アート」を取り入れた「木津川アート」を開催することで、新たな観光魅力の創出、新たな視点を加えた地域活性化に取り組みます。</p>	<p>木津川アート来場者数 11,872 人(H30) → 12,000 人(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○木津川アート事業 ○ものづくりフェア事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光商工課 観光商工課
	<p>③移住・定住の促進</p> <p>市民をはじめ、市内への移住希望者や来訪者に、まちの自然や豊富な歴史文化遺産、農産物などの魅力とともに、子育て、教育、文化、福祉などの暮らしに関する情報を広く発信します。また、地域団体とともに木津川市の様々な魅力に触れ、交流のきっかけとなる体験ができるツアーを企画するなど、移住と定住を積極的に支援します。</p>	<p>空き家バンク延べ登録件数 10 件(H30)→34 件(R6)</p> <p>空き家バンク延べ成立件数 6 件(H30)→12 件(R6)</p> <p>移住支援事業補助金交付件数 0 件(H30)→ 5 件(R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○空き家バンク事業 ○移住支援事業補助金交付事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 学研企画課 観光商工課
	<p>④健康長寿のまちづくり</p> <p>高齢者をはじめとした市民の主体的なサークル活動・ボランティア活動や、地域内の仲間づくり等の多種多様な社会参加の促進を支援します。また、市民が長寿社会のもとで健やかな生活が営めるよう生活習慣の改善などの健康寿命を伸ばす取り組みを進めます。</p>	<p>ヘルスデザイン事業参加者数 0 件(H30) →600 件 (R6)</p>
	<p><主な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯を励ます会事業 ○フレイル予防促進事業 	<p><所管課></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢介護課 健康推進課

7. 推進体制、効果検証の仕組み

7.1 推進体制

○推進体制としては、住民代表や産業界・行政機関・大学・金融機関・労働団体・マスメディア（産官学金労言）で構成する「市総合戦略推進委員会」、市長・副市長・教育長・部長で構成する「創生本部会議」、所属長で構成する「創生ワーキングチーム」の3組織を設置し、互いに連携を図りながら、戦略の推進に取り組みます。



7.2 効果検証

○個々の施策については、その進捗・達成状況の評価、及び適切な見直し・改善を行なうため、PDCA サイクルに基づく管理を実施します。

○木津川市の総合的な発展・振興を目指す市総合計画との整合性から、管理体制については、市総合計画の進捗・達成状況評価の仕組みを活用し、効率的かつ確実な管理に努めます。